

# Antoine Chintreuil

アントワーヌ シャントルイユ(1814-1873)



## 日暮れの印象

キャンバスに油彩

50×100cm (変形 仏 40 号)

「バルビゾン派と中心とする 19 世紀フランス絵画展」

(栃木県立美術館、1973 年) 出展作品 同展図録 No.44 に掲載

「もやと朝露の画家」

# Antoine Chintreuil

アントワヌ・シャントルイユ(1814-1873)



作品名 日暮山の印象

種類 キャンバスに油彩

サイズ 50×100cm (変形 仏40号)

展示会歴

「バルビゾン派と中心とする19世紀フランス絵画展」

(栃木県立美術館、1973年) 出展作品 同展図録No.44に掲載

## 【霧と朝露の画家】アントワヌ・シャントルイユの概要

シャントルイユはバルビゾン派を代表する画家の一人で1814年にフランス南東部のエン県ボン・ドウ・ヴォに生まれた。アルプス山脈、サオーヌ川、ローヌ川沿いの溪谷、中央山塊のなだらかな山々など多様な風景を持つローヌ・アルプ地方の一町である。コロの弟子でドービニーにも影響を受けており、そこから新たな自然をうたう独自の独創的な詩学、霧と朝露をうたう立体感と透明感と空気を感じる、まるで真珠の光り輝く採光が霧や朝露となって画面に広がる独自の画境を築き【霧と朝露の画家】と言われた画家です。とくに晩年に近づくにつれて完成度の高い作品を残し、1868年に制作され翌年のサロンに出品された縦102×202cmの大画面の題名が《空》(space)作品は大好評を得て国家に即買い上げされました。彼が認められたのは晩年の4、5年でした。それまではコロの弟子であり、才能に恵まれた勤勉な風景画家であり貧しく体の弱い孤高の画家で色彩表現に優れた詩情豊かな画家でありました。1873年ウィーン万国博覧会にフランスの国選として飾られ賞牌が授与された。しかしそのことがフランスに知らされたのは彼が他界した後のことでした。

晩年になり完成の域に到達した1対2のパノラマと豊かな色彩からなるシャントルイユの様式は真に美しいものを認識しうる心眼の偉大さを物となっているのである。



代表作はL'espace(「空」又は「空間」)で、1868年にリシャールの招きを受けてパリ近郊のミルモン滞在中に描いたものである。1869年にサロンに出品されたところ大好評を博して国家買い上げとなり、オルセー美術館の一角を飾っている。この作品はオルセー美術館の代表作品になっている